

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700121		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ そよ風		
事業所名	天神川ケアセンターそよ風(西フロア)		
所在地	京都市右京区西院西田町61番地		
自己評価作成日	令和4年2月1日	評価結果市町村受理日	令和4年6月29日

コロナ禍で外出や面会には感染予防に気を付け、入居者様の健康に注意した支援をスタッフ一同で行っております。天神川の桜並木を散歩できるように窓から桜の咲くのを心待ちにして眺めています。会社の経営理念である「世界で一番、仲間を大切に作るチームであり続ける」をもとに、スタッフ同士が助け合い入居者様に穏やかに自分らしい生活をして頂けるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UgyosyoCd=2690700121-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階
訪問調査日	令和4年5月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天神川ケアセンターそよ風は、株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティの傘下として2012年7月に開設されました。現在の入居者数18名、平均年齢90歳、平均介護度3.4です。開設時からの利用者もおられ、高齢化、重度化が進み、約半数の利用者は車椅子での移動をされています。意思の疎通が困難になった利用者もおられますが、入居時から聞きなれた職員の声には反応を示されています。職員は3度の食事を、利用者のリクエストに応じ、食材が偏ることなく、季節感を取り入れ、食事形態も個々に合わせて、食の楽しみを手作りで提供しています。職員は「多忙な業務ではありますが、スタッフ間で声掛けや助け合い、励まし合いながら良い関係で仕事できています」と話されています。

□

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を唱和し共有して実践につなげています。	会社の経営理念は、昨年3月に更新された。毎朝、デイサービスとの合同朝礼で唱和している。また、グループホームとして<自信をもって掲げる3つの特徴>-その人らしく、過ごしていただけるよう、その人の意思を大切にします- 毎日のお食事は栄養バランスのとれた手料理を提供します- 24時間体制の医療との連携でいつまでも安心して暮らせます-を掲げており、この方針に沿いカンファレンス時にはサービスの振り返りをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて今年も地域行事への参加交流は行えていません。	コロナ流行前は、地域の地藏盆、桜の会、松尾大社の祭、老人会主催の敬老会など利用者は参加していた。幼稚園児や小学生、ボランティアとの定期的な交流もあったが、まだ自粛している。時折、近所を散歩したり、近所の公園前で弁当販売があり、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて会議は中止ですが、行事報告やホームの状況を議事録にて送付しています。	運営推進会議メンバーは、町内会会長、地域婦人会員、地域包括支援センター職員、事業所職員である。議事録には、利用者・職員の活動内容、ヒヤリ・ハットや事故の報告がされているが、記載内容が少なく、地域代表メンバーからの意見や助言は少ない。町内会長から町内の情報は適宜伝えられている。家族に運営推進会議への出席依頼はおこなっているが、参加はない。議事録は全家族に送付している。	運営推進会議での報告内容を、詳しく具体的に記載してはどうか。地域代表の方から、事業所の各種サービス内容に対して、意見をいただく貴重な会議である、詳細な報告で活発な意見交換を期待する。

京都府 天神川ケアセンターそよ風(西フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	議事録や事故報告書などを届けに行き情報を聞いたりしています。	運営推進会議議事録や事故報告書は、行政に届けに行き、諸説明をおこなっている。地域ケア会議には参加して、情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の会議などで身体拘束適正委員会を行い話し合い意識向上に取り組んでいます。	「身体的拘束・適正化・虐待防止委員会」は、ユニット会議内で時間を取り毎月おこなっている。また、年間研修に組み込み実施している。コロナ禍で資料配布の自己研修時は、レポートの提出がある。スピーチロックやきつい言葉になっていないかなど、常に振り返りをおこなっている。玄関とエレベーターは施錠しているが、ユニット間は自由に行き来できる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議に身体拘束と同じく話し合い意識向上に取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学び活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族様に不安や疑問を尋ね理解、納得して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やオンラインにて意見・要望を尋ね出来る限り反映できるように努めています。	家族からの諸要望は、面会記録と申し送りノートに記録して引き継いでいる。家族から管理者や介護支援専門員への相談依頼があった時は、日にちと時間帯を予約しておこなっている。毎月、担当介護士は利用者の状況を、手紙と写真で家族に報告している。会社は年1回、顧客満足度調査を利用者(家族)におこない、ホームページで公開している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議やセンター長による面談などで意見を聞く機会を設けている。	管理者は職員の意見は、ユニット会議で聞いている。会議の進行はリーダーがおこない、全員が発言できるように促している。職員から洗濯機、掃除機の更新依頼があり対応している。センター長は年1回、職員と面談し意向を聞き取り助言をおこなっている。他に、併設のデイサービスセンターと合同の全体会議を毎月実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得などはすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にてリモートなどの研修に参加してサービス向上に努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り耳を傾けて安心して生活して頂けるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事・不安なこと・要望を聞き信頼して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話の中で出来る限りの対応が出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に出来ることは助け合い協力できる関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り協力しながら本人を支えていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であります手紙や電話で、人や場所の関係が途切れない様支援に努めています。	馴染みの美容院へは、家族が付き添い定期的に通っている利用者がおられ、感染予防は十分をお願いしている。面会はガラス越しや相談室、ライン電話などコロナ感染状態に応じて対応している。友人の中には、ガラス越し面会を続ける方もおられる。コロナ収束時には、小豆島への家族旅行を楽しまれるなどさまざまである。利用者の高齢化や重度化が進み、趣味の継続ができなくなった方も多いが、編み物やアレンジメントフラワー、新聞の購読など、できることを継続的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し支え合えるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて出来る限り相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望を尋ね家族・スタッフと相談し検討しています。	聞き取った利用者の意向は、タブレット内へ記録するとともに申し送りノートに記載して引きつぎ、職員間で情報を共有している。必要にあわせて、ケース会議で検討している。口頭での意思表示が困難になっている利用者もおられ、態度や表情で判断するとともに、好きだったこと、喜ばれたことなどを振り返り支援している。	

京都府 天神川ケアセンターそよ風(西フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族様からの情報を頂きスタッフで共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を把握しスタッフで共有するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度の介護計画を見直しスタッフで話し合っています。	個別支援計画は6か月ごとに、セサメントシートの見直し、モニタリング(総括表を活用)、サービス担当者会議を開催して計画の見直しをおこなっている。介護課題ごとのサービス内容はチェックリスト化(タブレット内)し、毎日実施時にチェックしている。このチェック内容は計画作成担当者(介護支援専門員)が毎月まとめている。ケース会議も適宜実施している。家族に年1回、介護計画の説明をおこない了解を得ているが、サービス担当者会議への参加はない。	利用者は高齢になる中で、心身共に抱える課題は多くなる。家族と共に利用者の生活を支える観点から、サービス担当者会議に家族参加を呼びかけ、共に支援されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で情報共有し実践や見直しに出来る限り活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応して支援に出来る限り取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむことが出来るように出来る限り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族の希望を尋ねかかりつけ医との医療が受けられるよう話し合いを行い支援しています。月2回の訪問診療を受け、24時間、電話対応にて適切な支援を受けられるようにしています。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医に選択して、月2回の訪問診療を受けている。希望者には歯科医の往診もあり、歯科衛生士(週1回)による口腔ケアは、ほぼ全員の利用者が受けている。外部への受診は家族と通院されており、必要に合わせ、医師の紹介状や看護・介護サマリーを渡している。受診結果は、タブレット内と申し送りノートにも記載して申し送っている。看護師は週2時間程度の勤務で雇用して、24時間オンコール対応で連絡できる。訪問診療時に立ち会い医師の指示受けや、必要に合わせて往診依頼をおこなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や看護師と24時間対応で連絡を取り適切な看護が受けられるよう出来る限りの支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換は密に行い利用者が安心して治療できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合早い段階で家族・医師・看護師・スタッフと話し合いお互いの出来る事を共有し協力し合い支援に努めています。	入居時に「重度化した場合の対応」や「看取り介護に関する指針」を理念とともに説明し、利用者(家族)から署名捺印を受けている。これらの指針は開設時(12年前)から作成されている。管理者を含み開設時からの職員もおられ、看取りの経験が豊富な職員もいる。初めて看取りを経験する職員には、不安を軽減させるよう精神的なサポートを重視している。病状説明は医師から適宜おこない、点滴投与も実施している。看取り時に家族用の泊まれる和室がある。昨年度は看取りが1人、最終的に病院に行かれるまでの支援が1人おられた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて訓練を行い実践力を身につけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練にて意識つけ地域の方にも声かけをお願いし協力体制を築いています。	年2回の防災訓練の内、1回は併設デイサービス、事務所、厨房と合同で昼間想定訓練、あと1回はグループホームのみの夜間想定訓練をおこなっている。利用者を非常口まで避難誘導している。近隣に住む自治会長が訓練に参加され、有事の時には応援を頼める関係である。水害時には地域の方の一時避難場所として、事業所2階に避難してこられることを承諾している。スタッフ全員にラインメールを活用し、連絡をとっている。備蓄は、食料、水、備品など3日以上多めに準備している。	車椅子での移動者が約半数を占めており、夜間の避難訓練はとても重要である。応援体制をもっと整える必要があるのではないか。具体的な応援体制の構築が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーの研修やスタッフ会議などでスタッフと話し合い不適切な対応がないかを確認しています。	コロナ禍のため研修は資料の配布とレポートの提出で実施している。利用者への声がけは丁寧に話すのを好まれる方、気さくに話してほしい方などそれぞれに応じて使い分けしている。居室に入るときは扉を閉めるように心掛けている。使用済みのおむつは、新聞紙にくるんで他者にわからないよう廃棄している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分ではありませんが、日々の生活の中での会話や様子から希望や思いを表現できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らし方が出来るよう希望を尋ね出来る限りの支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りの支援に努めています。		

京都府 天神川ケアセンターそよ風(西フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい物であるように希望を尋ねたり作ったりして出来る限りの支援に努めています。	食事メニューは、1週間づつ職員が交代で考えている。利用者からの希望を聞き、季節感も大切に栄養が偏らないように工夫している。もやしひげ取りやインゲン豆の筋取り、ピーラーでの皮むき、おはぎ作りや餃子包み、配膳、下膳、食器拭きにも参加している。誕生日食は希望に応え、ケーキを買ってお祝いをしている。時には近所の公園に販売に来られるお弁当を買ってきて提供することもある。シリンジで流動食を摂られる方も、ミキサーを使用した同じものである。茶碗、湯呑、箸は自前のものを使用している。食事の時はテレビを消してラジオをかけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科のもと個々の状態に合ったケアを出来るように努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄できるように排泄記録を見ながら声かけ自立に向けた支援に努めています。	排泄は、利用者個々の習慣に添って声かけ誘導し、タブレット上の排泄表に記録している。布パンツの方もおられるが、リハビリパンツ、紙おむつの方が多い。トイレの排泄介助での声かけは、羞恥心に配慮し、リハビリパンツやパットなどは新聞紙で包み、人目に触れないように処理している。夜間のポータブルトイレの使用は1人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関の協力や食事・水分に工夫して個々に応じて取り組んでいます。		

京都府 天神川ケアセンターそよ風(西フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は希望に沿っていませんが、ゆったりと入浴していただけるよう努めています。	利用者の重度化が進み、約半数の方はシャワー浴で対応しており、体調によっては清拭に変更することもある。入浴剤は使用しないが、ゆず湯やバラの花を浮かしたバラ風呂を楽しまれている。午前中に入浴時間を設け、拒否されたら無理強いせず翌日に入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じた安眠や休息が出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬を理解し症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り個々に合った支援が出来るよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援は出来ていません。家族様の協力で数時間食事に行かれることはあります。	利用者の高齢化や重度化が進み、身体介護の比重が高くなっており、個別の散歩支援が困難な現状がある。センター長の応援で車椅子散歩や、職員数が多いときには散歩や日光浴に取り組んでいる。十分な感染対策をしてもらい、家族と一緒に旅行や食事に行かれる方はある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物など行けるようには支援していますが、コロナ禍で出来ていません		

京都府 天神川ケアセンターそよ風(西フロアー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様と電話・ライン電話で様子を見ながら話をさせていただけるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくような飾りや、温度調整・湿度調整など居心地の良く過ごしていただけるよう努めています。	リビングルームの窓は大きく、フロア全体が明るい。廊下にもソファを置き、座って壁に貼った写真を見たりしてくつろがれている。壁には季節の貼り絵や塗り絵が飾ってある。トイレとリビングは夜勤者がモップをかけて清掃している。空気清浄機を設置し換気もおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限り思い思いに過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れたものや馴染みの物を持ってきたいいただき過ごしやすい居室になるように工夫しています。	居室の入り口には、表札と利用者が色鉛筆で書いた塗り絵の額がかかっている。居室内にはタンス付きのクローゼット、ベッドが配置され、自宅で使っていた小タンスやテレビ、テーブル、椅子など、好みのものを持ってきておられる。壁に大きな家族写真を飾られている方もいる。コロナ禍で家族は居室に入れないが、清掃は職員が週3回モップ掛けをおこない清潔に留意している。日中はリビングルームで過ごされる方が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全で自立した生活が送れるように工夫し支援しています。		